

「飛躍的な収支の改善は困難。市民の理解を得るうえで課題は多い」 大島あさひ荘の再開、村山市長は極めて慎重な姿勢

6月定例議会が6日から始まり、村山市長は、平成24年度一般会計補正予算などについて提案理由を説明した後、総括質疑を受けました。このなかで市長は、大島あさひ荘の再開に関して極めて慎重な姿勢を示しました。これは杉田議員の質問に答えたものです。

大島あさひ荘の今後について問われた市長は、「市ではこれまでの間、施設を再開する場面に想定される運営形態、運営主体などについてコスト面を含め検討をしてきた。その結果、利用者数の減少傾向が続く、飛躍的な収支の改善が困難であることや、築後30年を経過し、老朽化の著しい施設の修繕費が今後かさむ実態も明らかに従って来ており、また、地元の大島区内では同施設の事業運営に意欲を持つ引き受け手が現在は見当たらないなど、短期間での施設再開は非常に厳しい状況であることがわかってきた。地元からは早期の再開を求める声があるが、このような採算性が厳しい状況の中での再開は、結果として多額の財政負担を伴うこととなり、また、周辺の類似施設との再配置の観点からも広く市民の皆さんの理解を得るうえで課題が多い」と答えました。

また、市長は、「昨年10月、市は第4次行政改革大綱に基づく公の施設の再配置計画を決めた。平成26年度までに約1000ある施設のうち概ね1割を再配置することを目指している。そのなかで温浴施設については、直営施設を含め、総じて施設が競合しているだけでなく、全体として収益面での課題を有している。施設設備の老朽化も進んでいる。こうしたことから、施設の今後の維持、運営の検討にあたり

ては、5年先、10年先を見つめつつ、それぞれの地域にある施設をどうしていくべきか、地域住民や関係する皆さんと真剣な議論を積み重ねていく時期が来ていると考えている。あさひ荘についても、同施設の固有の状況を踏まえつつ、こうした考えのもとで地域の人を含め議論、検討していきたい」とも述べました。

大島区住民を中心に大島あさひ荘の再開を望む声は強く、今議会では再開に向けた積極的な方針が示されるのではとの期待もありました。しかし、今回の市長発言は市の第4次行政改革大綱に基づいた対応をしていくことを繰り返すだけで、再開への熱意をにじませた言葉も新たな提起もありませんでした。これでは、関係者はがっかりです。



在職20年以上の表彰を受ける

全国市議会議長会からこのほど在職20年以上の表彰をいただきました。この間、ご支援いただいた市民の皆さんに心から感謝いたします。気持ちを新たに頑張りたいと思います。

私の場合、市議になったのは2005年からで、市議としての実際の在職年数は7年です。ただ、表彰規程では、町議会議員の在職年数も半分だけカウントされることになっています。私が在職20年以上ということになったのはそのためです。町議は1978年（昭和53年）から26年あまり務めさせてもらいました。

市議として最初に取り上げた問題は県立柿崎病院存続のために後援会を設立することの提案と市の支援でした。また、高齢化の進んだ山村集落の再生をめざす調査の提案は全国的に話題となり、注目されました。

写真は6日、議場で表彰状を受ける私。



【ササユリ】ササユリは吉川区が北限だと聞いています。花言葉は「清浄、上品」。一度出会うと、毎年あいたくなる美しい野の花です。写真は4日、吉川区の山の中で撮影しました。

いま、市内の山野では、ツツナミソウ、キンランなども咲いています。野の花は春の花から夏の花へと移りつつあります。

今回の補正予算では、株式会社あさひ荘が取得した資産のうち、源泉のポンプ制御盤、空調循環ポンプ、送迎用車両などの資産を同社の破産管財人から買い取るための経費、約1042万円（消費税込み）が計上されています。これらについて市長は、「本来は市が整備すべきものと認められる資産」だから購入するという説明をしました。



ヤマボウシ

二年前の五月、柏崎の父の米寿の祝いをした時、「来年は山へ行つて、今度は二人の祝いをしようね」という約束をしていました。二人というのは私の母と、柏崎の母のことですが、先月、ようやくその約束を果たすことができました。

約束が一年延びたのは、柏崎の父が急逝したからです。先延ばしによって、母は満八十八歳になりました。柏崎の母は七月生まれですので、数えで八十八歳です。

祝いの場所は柏崎の父の時は海が見えるホテルでした。今回は山のホテルです。新緑と山菜料理を楽しむことができる場所を選びました。ホテルで用意してくださった部屋には、紫の藤、オレンジ色のツツジなど季節の花が飾られていました。

開会に当たり、二人の母に花をプレゼントしました。これは妻がホテルの女将さんに頼んでおいたものです。カーネーションやカスミソウなどがたっぷり入った素敵なお花束でした。花束を手にした二人を中心にして記念写真を撮りましたが、少し緊張気味でしたね、二人とも。

柏崎の兄が挨拶した後、私の順番がやってきました。スライド上映です。二人の母の歩みを五〇枚のスライドにまとめて上映して、みんなで見ました。当初、柏崎の母の写真に関しては柏崎の兄が、母の写真は私が説明することにしていました。ところが映し始めたら、スライド写真に登場している本人たちが次々と語りだし、周りの人もしゃべって、とても賑やかになりました。

婦人会時代の写真を数枚使って数十年前の柏崎の母を映し出した時には、「お母さん、いい顔しているわ。銀歯流行っていたんだね、当時は」「若い、若い。森光子みたいだね。若い時、きれいだったね」「じゃ、いま、きれいでないということか」などといった声が飛び交いました。母が写った大島村での写真を上映する時も、「この人は死んじゃったけど、千葉の国鉄マン、叔父さんだ」「誰が撮ったの」「誰だろう」「これは足谷のばあちゃんだ。この人はこの間、亡くなった狭山の叔母さん」といった調子です。説明が終わらないうちに質問の出るケースも何回かありました。言うまでもなく、スライドで使った写真にはいろいろエピソードがあります。

私たちの結婚式当日の写真には、ウエディングドレスを着た妻を真ん中に両親が写っていました。「あの恰好して車を運転して結婚式場に行ったんだもん、対向車の運転手もびっくりしたろい、花嫁が逃げたと思つて……」「私、誰とも相談せずにパツパツと結婚してしまつた」私も聴いたことがない話が出てびっくりしました。

母が入った集合写真。四、五〇人の人が写っています。「これ、集団で旅行に行つたところだ」と説明し、画像を拡大すると、「一九六七年」「長浜」という字が見えます。「五五年前か。ああ、長浜か」「ヤンマーディーゼルの耕運機を買った時に、招待受けたんだろ」山間部にも耕運機が入り、農業の機械化が本格的に始まるようになっていた時代の写真です。「ハンドルを回してエンジンかけると、タンタンタン、タタタタ」という音が出てさ……」懐かしい話でいっぱいになりました。

最後のスライドは撮ったばかりの花束贈呈の写真を使いました。これには二人の母が驚いていました。

二人の母が主役の八十八の祝い。スライドに何回も登場したこともあって、二人の連れ合いと一緒に山菜料理や鯉の甘露煮等を食べ、スライドを見ているような雰囲気がありました。たぶん、柏崎の父も私の父も喜んでくれたと思います。

直江津は日本列島東西の分岐点 港湾協会の総会で佐藤和夫さんが講演

直江津港湾協会の通常総会が先月31日にありました。恒例となっている通常総会終了後に行われる講演の講師は地元の北越出版の佐藤和夫さんです。



講演は直江津港の歴史がテーマでした。いきなり義経記の話から入るとはびっくりしました。「直江の津は北陸道の中途にて候えば…」を引用し、日本列島東西の分岐点であることを教えてもらいました。そして、直江津は海陸の接点にあって、物流基地になる地理的要請があった。なるほどと思いました。港へは持ってくる物が多いが、ここから出すものがあまりない。この指摘は昔からあったことも初めて知りました。勉強になりました。

講師の佐藤さんとは、終了後、ホテルのロビーで30分ほどお話しすることができました。渡辺泉さんのべ

ストセラー、『もう一度望みが叶うなら』と吉川区竹直の真照寺の高嶋先生のこと、季刊『直江の津』とそこに書かれた文章のことなどたくさん話ができ、有意義なひと時を過ごしました。

井上さとし参院議員などが活動報告



日本共産党後援会の北陸信越ブロック交流集会が2日、リージョンプラザで開かれ、当面、国政の焦点となっている原発再稼働問題を学びました。

井上さとし参院議員が原発再稼働、消費税増税の動きとそれに反対する活動について、現在の情勢をふまえた報告を行いました。福井県大飯町議の猿橋さんは、大飯原発再稼働の動きが強まっている中で、町議会ですらひとり再稼働反対を貫いている活動を報告、大きな拍手を浴びました。

集会の前に行われた文化企画では、大湊区の平澤栄一さんと吉川区の山岸協慈さんが登場し、フォークソングを披露しました(写真)。「久比岐の歌」「百姓99」の歌声は参加者の心をとらえ、大きな拍手が送られました。